

2026年1月7日 5:00

## 人手不足で自動化需要拡大 AIエージェントとフィジカルAIに注目

注目投信に聞く グローバル・ロボティクス株式ファンド

ファンドウオッチ 株式



アモーヴァ・アセットマネジメントの「グローバル・ロボティクス株式ファンド」は世界の株式の中から主にロボティクス関連企業に投資する。1年決算型や年2回決算型などコース合計の運用額は約1兆2000億円にのぼる。実質的な運用は米ラザード・アセット・マネージメントが担う。日本法人の岸田有央ポートフォリオ・マネージャーにファンドの特徴や運用方針について聞いた。

——ファンドの特徴を教えてください。



ラザード・ジャパン・アセット・マネージメントの岸田有  
央ポートフォリオ・マネージャー

「自動化を可能にする企業に投資する。先進国や中国の生産年齢人口は減少が見込まれる。人手不足を補うには自動化に関連する技術やサービスは欠かせない。設定した2015年に比べ人手不足が深刻化する一方で、関連技術は進歩しており投資先の領域は広がっている」

「ファンドで投資するロボティクスの定義はデータを集める『センサー』、集めたデータから学習する『人工知能（AI）』、実際に動く『ロボット』の3つを指す。ロボットアームは典型例だが、それ以外にも自動運転の自動車や鉄道、倉庫や工場などの自動化、生成AIや半導体、データセンター、電力機器などが対象になる」

——どうやって投資先を絞り込むのですか。

「世界の株式の中からロボティクス関連事業の売り上げがある、あるいは近い将来に売上計上が予測できる約500銘柄を選定する。企業調査を経て250～300銘柄を重点分析対象にし、企業戦略や競争環境、経営陣のクオリティーなどを分析して40～60銘柄に投資している」

| 組み入れの上位10銘柄（2025年11月末時点） |                 |        |
|--------------------------|-----------------|--------|
|                          | 銘柄名             | 組み入れ比率 |
| 1                        | エヌビディア          | 4.7%   |
| 2                        | インテリジェントブサージカル  | 4.2%   |
| 3                        | ロックウェル・オートメーション | 4.0%   |
| 4                        | シーメンス           | 3.9%   |
| 5                        | ABB             | 3.6%   |
| 6                        | 日立製作所           | 3.0%   |
| 7                        | 三菱電機            | 3.0%   |
| 8                        | TSMC            | 2.9%   |
| 9                        | アルファベット         | 2.7%   |
| 10                       | ダイフク            | 2.6%   |

——AIも投資対象とのことですが、バブルの懸念が指摘されています。

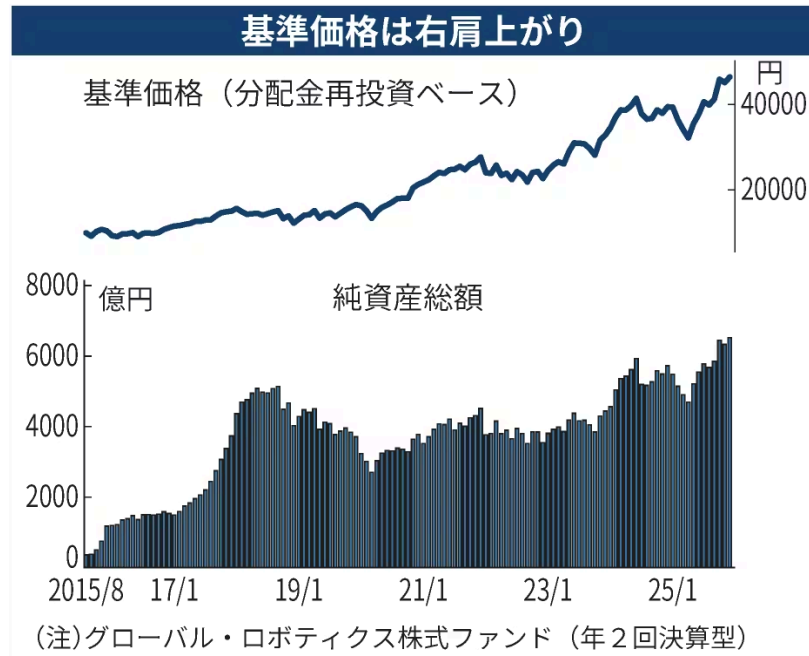
「バブル懸念が生まれるのは当然だ。米国の鉄道網やインターネット網など過去の大規模なインフラ投資の規模は米国の国内総生産（GDP）対比で5%前後にのぼったという調査がある。データセンター投資はGDP比で1%を超えたところ。始まったばかりともいえる。AI関連は波打つように上下しながら右肩上がりが続くだろう」

「AI関連はインフラ、プラットフォーマー、アプリケーションの3つに分かれる。赤字が続いているのはオープンAIなど、AIモデルを開発するプラットフォーマーの部分だ。データセンターやそれを支える半導体、電力機器といったインフラは黒字になっている。AIを活用したアプリケーションの社会実装はこれから始まる」

——現在、注目しているのはどのような分野ですか。

「アプリケーションだ。AIが自律的に作業をこなすAIエージェントと、ロボットや機械を自律的に制御するフィジカルAIに注目している。AIエージェントが普及すれば、AIに作業を任せている間に人間は他の仕事ができるため、生産性が大きく向上するだろう」

「フィジカルAIでは人型ロボットの実装には時間がかかるが、自動運転のロボタクシーや産業用ロボにAIを組み込む事例が出始めている。新たな市場が生まれ拡大が予想されるため、どこが勝ち組になりそうか徹底調査している」



——フィジカルAIが注目されると日本企業への投資も増えるのでしょうか。

「日本への投資比率はおおむね20%以上で推移しており、グローバル株ファンドの中では高い。フィジカルAIの分野では産業用ロボやモーター、変速ギアといったロボット関連の部品に強い日本企業が今後も主役であり続けるだろう」

「中国は追い上げてきているが、半導体やロボットなど技術進歩が続く分野では日本などの優位性は崩れない。地政学リスクが高まる中で、日本は必要な技術を持っている国として恩恵を受けるとみている」

（聞き手は松本裕子）